十勝毎日新聞

一ヶ月 七十錢
一部 三錢
廣告一行 一圓 特別倍額

發行兼編輯印刷人 堀正明
發行所 北海道十勝國河西郡帶廣町西一條八丁目二番地 十勝毎日新聞社
電話三一五番八（營業局用）七八番（編輯局用）一〇一番（社用）

春秋拓けて四十年
大帶廣市生る
けふぞ喜びへの門出

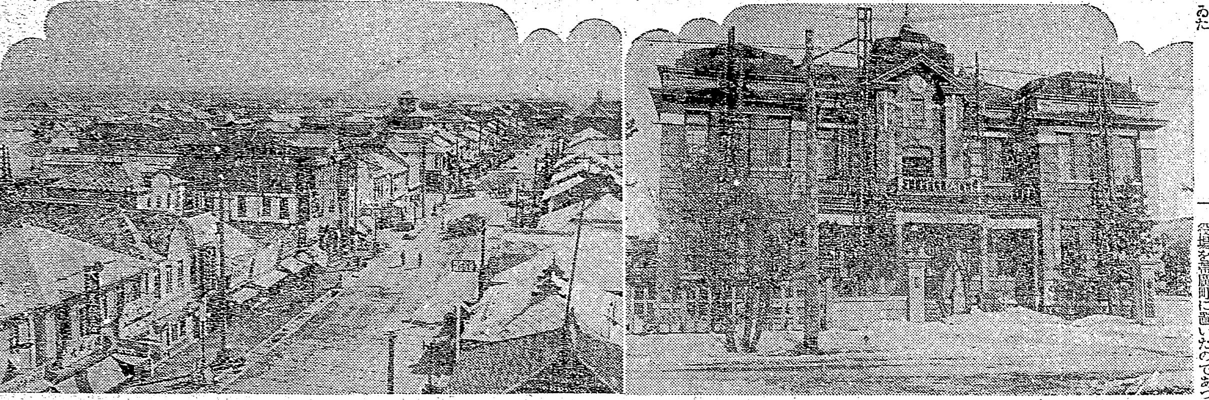
文化の機構成つて

本道七大都市の一つとして肩を並べるに至つた帶廣市は廣袤六百三十余方里の寶庫十勝の中央に位し昔は下帶廣村と呼ばれ、明治十六年四月に晩成社の農家十三戸が此處に移住して來たが當時一帶の**原野**で道路交通の便なく僅に十勝川に土人が操縦する丸木舟によつてゐた

明治二十五年大津から一條の道路が囚人の手によつて開さくされた、之は釧路標茶の集治監が帶廣に分監を設けた爲である、明治二十六年六月大津外四十六個村戸長役場の管轄を分けて河西、河東、上川各村戸長役場が此下帶廣に置かれた、明治廿七年市街區劃割をして**道廳**から貸下げられ茲に始めて帶廣町が生れた譯である同三十五年四月に下帶廣外八村を廢合して帶廣町、伏古村、上帶廣村、賣買村、幸震村とし組合を以て二級町村制を施行して役場を帶廣町に置いたのであつた、明治四十年九月に旭川、釧路間の鐵道が開通したのを機轉として邊沃な周圍の農村開發と相俟つて加速度的な發展を遂げ從つて町の**構成**が漸く鞏固になり諸官衙が續々設置され工業も亦勃興して商舖連檐の活況を呈するに至つた

斯くて駸々乎たる町進展の動向から大正四年四月に組合町村を廢して帶廣町は伏古村の一部を合併して一級町村制を施行し茲に完全な自治体を構成する事になつた、是より先き明治四十四年二月帶廣神社を奉祀し無格社なのを大正七年十一月郷社に昇格し、此歳が丁度**開町**二十五週年に相當したものであるが越えて翌八年の六月に昇格奉告祭と開町二十五年の記念祭を擧行して帶廣鈴蘭公園に記念碑を建設したのである

大正十一年二月十勝監獄用地の一部を割き市街宅地二千戸を更に昭和三年市街宅地千五百戸を設定して民間に賣拂ひ猶は帶廣競馬場の開放、十勝支廳々舍の新築移轉等大帶廣の基礎が堅められ昭和四年から**帶廣**の都市計劃案の準備が進められ延いて帶廣市制施行準備委員會の組織となつて昭和八年二月十五日多年の懸案であつた帶廣市制の告示があつて燦然たる帶廣市が現出したのである



寫眞說明 向つて右帶廣市役所　同左伸び行く大帶廣市

遠く四年前に
都市計劃
面積三方里二分八里

帶廣市の都市計劃案は帶廣が町であつた時代即ち昭和四年四月から當時の助役鈴木綠道氏が立案して帶廣町の外に音更村の千野、木野兩市街、幕別村の札内市街、川西村の北部工場地帶及び**芽室村の**一部を包含した七方里強の廣範なるものであつたが其後幕別村の一部を編入することは氾流札内川に架橋せざるべからず、又單に方圓的な地形に拘束されて芽室村一部の編入の要なしと云ふ事となり音更の一部及び川西の一部編入を打ち切つたもので之を加へた總地積四方里九分八厘八毛で其後帶廣市制施行準備委員會で兩村に對して數次の折衝を試みたが未だ**其解決を**見ずして兎も角三方里二分八厘の現在の地域で市制施行に邁進した譯である此縮少された都市計劃案は現帶廣町助役大江啓一氏の腹案によるものであつて帶廣市の將來を見詰めて土木關係及び財政關係から徒らに幕別或は芽室の一部併合に反對したもので頗る肯けいに値ひする案とされてゐるが、實際の事務は昭和四年五月から田上書記が專任で當り道廳都市計劃課の應援が頗る大きかつた、斯くて**都市計劃**の完成——都市計劃は交通、經濟、衞生、保健について住民並に公共の利益及び福利增進をなすべき永久に亙る施設といふ事になるが斜線の道路、ピッチューマルスの鋪裝、綠の公園排水溝の完備、市民運動場、住宅地帶、工業地帶、商業地帶等々整然たる市街構成にあるが内地都市では市制が施行されて三四年にして都市計劃が實施されてゐるが帶廣市の都計は市制直後施行の道廳の意響であるらしく隣接村の併合問題も此都計によつて容易に解決することとなる譯である。

産業都市として
全道一を誇る
生産狀態、金融其他

産業都市と謳はれてゐる帶廣市は單獨に生産都市としてその面目を發揮するとよりも寧ろ圍繞された農村の貨物吞吐の街と稱すべきである即ち昭和六年の移入が千百二十九萬四千三百七圓**移出**九百二十六萬二千九圓に及んでゐる、なほ且つその生産額において昭和六年度末現在で百四十九萬三千八百八十五圓に及び同年度における十勝の總生産額二千百十九萬六千三百十圓の約七パーセントに該當してゐる、これを産業別としてみると

農産物は二十四萬四千七百十八圓、畜産業は十三萬四千六百八十四圓、水産業は七千百九十六圓、林産業は二百四圓、工産業百九萬二千四百二十四圓、鑛産一萬四千六百五十九圓である

然して**農産**では大小豆工藝特用作物菜豆類の産額が多くことに蔬菜供給地として獨自の地位をもち道内外は勿論海外輸出もある、最も盛んなのは工産業で製造工場數百五十三に及び從業員も五百五十四名とある。畜産品も亦相當多く牛馬の生産年々三百餘頭を下らず又牛乳の搾取量も多く市内の煉乳工場は市内及び附近村落から牛乳を蒐め煉乳とバターを生産しその製品は中央市場は勿論海外まで名聲を轟してゐる

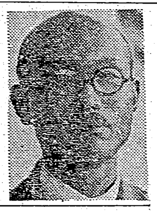
帶廣の大を爲すには農産加工業の振興と隆盛に俟たねばならぬとあるが着々その方面の開拓が期せられつつあるのは帶廣市のために喜ばしいとされてゐる

金融 金融資本が凡ての産業に及ぼす支配的勢力は言ふまでもない處であるが帶廣市には拓殖銀行帶廣支店を筆頭に安田銀行、十二銀行、北海道銀行、北門銀行の各支店があり市大通りに巍然たる建築美を見せて十勝經濟界に君臨してゐる、更に**無盡業**に就いて見るに本社を帶廣に置く北日本無盡會社の外に殖産無盡、一力無盡兩社の支店が設けられて其契約高は實に二百余萬圓を突破する勢にある

信用組合 は帶廣信用組合の獨擅場とも稱すべきでその牢固たる經營振りから組合員七百餘名同組合では更にこれが倍加の擴充計畫をなしてゐる

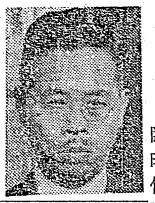
會社 昭和六年度現在における會社總數は八十七、出資額又は資本金總額は八百五十一萬五千六百六十圓（同拂込額五百四十六萬八千五百九十一圓）で積立金總額は十四萬八千二百五十三圓といふ堅實さをみせてゐるが市制施行と從來叫ばれてゐた資本家の招來によつてこの數は著しく增加するとみられてゐる。

十勝開拓上に
好響至大
十勝支廳長 齋藤修三



本日を以て帶廣に愈々市制を施行せらるることとなりましたとは洵に慶賀に堪へない次第であります顧るに當市は元下帶廣村と稱し明治十六年に晩成合資會社が當地に農家十三戸を移住せしめたが開町の創始でありまして勿論その當時は道路その他交通の便なく僅に十勝川に依て舊都大津に通ずるに過ぎない狀態であつたのであるが明治二十一年より同三十二年に亘り旭川より帶廣、大津に通ずる**道路**が開さくせられ明治四十年には函館、釧路間の國有鐵道開通を見交通の便備はりて四圍の町村開發進展に伴ひ帶廣亦商工業漸く起り漸次殷盛を極むるに至り加ふるに官公衙其の他金融機關等も增設せられ交通機關にありても更に士幌線廣尾線等を初めとし其の他運輸交通機關の完成と相俟て今や戸數六千二百餘人口三萬二千有餘を算する都市を形成し今日の隆昌を見るに至り明治三十五年この地に初めて二級町村制を施行せられてより茲に三十一年を經過する今日他の先進都市に先じて最高の自治制たる市制を實施せらるるに至りたるとは眞に慶祝に堪へざると共に又その**異常**の發展振には驚嘆せざるべからざる所である、これに依り今後十勝における拓殖計畫も帶廣市を中心として計畫實施せらるるとなり軈て十勝將來の拓地殖民上に及す影響も蓋し甚大なるものあるを信じて疑はざる次第であります、元より斯の如く著しき發展を遂ぐるに至りたるは地理上明に十勝の中央に位し交通上非常に至便なりしと共に移民諸氏の精勵努力の結晶なりと謂ざるべからざる所なりと雖も亦一面全十勝官民が良く一致協力してその發展を期し今日をなしたることを忘却することが出來ないのである本日は實に當市發展史上一新紀元を劃するものであつて當地は勿論邦家のため洵に祝福に堪ない次第であります本市の將來は農村都市として**偉大**の發展をみることは疑はないのであるがそれにしても今後施設計劃を要すべきもの甚だ多きに鑑かみ一層奮勵して以て當市の健全なる發展を期せらむことを切望して止まない次第であります。

工業本位に
市是の確立へ
市制實施に對する所感
帶廣市助役臨時代理 大江啓一



本日より自治最高の市制を實施され全國百二十市の一に數へらるる事は本市將來の爲め市民と共に大いに祝福する次第なり

茲に本市の過去と將來の發展を想望し聊か所感を述べんとす

本市は天地人の三和を得たる所なり、水清く氣溫み居住に適するのみならず秋冬は雨雪少なく晴空拭ふが如く農産收納に適し春夏の雨露は農作物の發育に順を得之れ天の和を得たるものなり、本市の位置は廣袤實に六百卅六方里の十勝大平原の中央に位し土地平坦一望開潤釧路本線に更に北に士幌線南に廣尾線の國有鐵道と更に私設線たる西南に十勝鐵道の走るあり、即ち四通八達交通の便を得之れ地の和を得たるものなり市民は各府縣人士の集合より成れるも公私の事業克く和衷協力し各自疾視し泯なく洋々融和市の發達を圖るは之れ人の和を得たるものなり

大正四年四月一日北海道一級町村制を施行せられし時を顧るに戸數一千九百五十戸、人口八千四百五十七人なりしが爾來周圍農村の開發に伴ひ農産物の集散、牧畜の進展歳と共に隆昌を加へ我が町民の不撓の努力は商工業の長足の進歩を促し今や戸數六千五百戸、人口三萬五千人に達し尚將來發展の氣運磅礴せり、大正四年以來新に施設せられたる諸事業の數に算あらずしと雖就中農學校、中學校、柏小學校、姉妹、大谷の兩高女高等科單置校、役場廳舍の新築旭病院、公會堂屋、消防所の集合制、十勝會館、郵便局の二等昇格と局舍の新築、三等郵便局の三ヶ所新設、十勝支廳の移轉新築、用水路及下水道、鐵南方面の舊監獄用地の解放と市街宅地の設定、北海道製糖株式會社及極東煉乳工場の新設、帶廣川の改修工事、十勝川治水工事、舊監獄用地の町有地としての獲得公園の設定、飛行場の新設、金融關係に於て銀行支店の增設無盡會社の創立等文化經濟社會的施設等の歳と共に整備し其の發展の速かなる實に隔世の感なき能はず

×

更に本市の將來を想望せんか上述の天地人の三和を得たる自然的産業都市たる素質を有し從つて之れが當面の問題又多年の懸案なるは勿論にして即ち大帶廣市建設同盟會の掲げる聯隊移轉等の各種の問題を始めとし鐵地火葬場の新設、鐵南小學校の新設、上下水道の完成、道路の鋪裝工事、電車又は市電バスの運行等數へ來れば殆指に遑あらず、亦市百年の發展策として工業本位を市是と定め勇往邁進するを要すべく由來本市は農産物の集散全國一と稱せられ之れに伴ふ物資の供給等所謂農産を主とする商業に依つて發展し來れるも今後は幾多の農産物に加工し之を輸出するを相互の利益たるは萬人の等しく認むる所にして之等加工の工場設置を獎勵し以て本市の繁榮を期せんとす各種の工場を誘致する所以なり、而して吾人は外にありては以上の希望實現に努め内にありては愈々官民一致融和綜合し克く天惠の産業都市として發達せしめ我等の市港土建設に邁進するは吾人の使命なりと信ず、依つて市民各位の蹶起を望むや切なり

大帶廣市の全貌

○人口＝三萬一千九百九十七人 ○戸數＝六千百六十五戸 ○面積＝三方里二分八厘八毛 ○財政＝（七年度經常歳入出）三十九萬二千五百五十四圓 ○町有財産＝九十六萬四千三百十九圓 ○學校數＝十二校（内）小學校四校、幼稚園一、中等學校五校、實業學校二校 ○寺院＝十二、教會十五 ○病醫院＝三十 ○道路延長＝四十二里七町二十間（内）地方費道四里三町二十九間、準地方費町村道三里十一町八間、町村道三十三里二十八町五十三間 ○停車場＝三驛 ○交通量＝（一年）九十一萬四千二百七十二人 ○移出入高＝（一年間）二千五十五萬六千三百十六圓

祝帶廣市制施行

北海道廳長官	佐上信一
衆議院議員	三井德寶
道會議員	奧野小四郎
道會議員	山本與七郎
道會議員	矢野治吉
帶廣治水事務所長	齋藤靜脩
十勝支廳長	齋藤修三
帶廣市長	横瀨農夫也
帶廣土木事務所長	相山常治
河西税務署長	江藤慶一郎
帶廣營林區署長	高野謙之助
帶廣驛長	菅峯三郎
帶廣測候所長	佐藤善吾
帶廣郵便局長	長谷川一
帶廣農檢支所長	佐々木盛太郎
帶廣帝國製線工場長	相澤友吉
札幌市辯護士	中田克已知
北海拓鐵社長	北村正雄
札幌市	後藤平四郎
廳立帶廣中學校長	銀林由信
廳立十勝農業學校長	三宅於菟松
帶廣高等女學校長	河田馨
帶廣大谷高等女學校長	松山亮
帶廣高等小學校長	三谷三藏
帶廣尋常小學校長	金耕太郎
柏尋常小學校長	高口久次郎
帝國在郷軍人會十勝聯合分會長	荒井信治
帝國在郷軍人會帶廣市分會長	小林一治
縣社帶廣神社社司	大野吳朗

（順序不同）

帶廣市文化街
梅村勉
電話一二二番

帶廣消防組頭
本名音吉
電話四番

旭川市
鶴間組
鶴間禮藏
帶廣出張所
電話一〇番

本別町
岡崎組
岡崎公一
帶廣事務所
電話一三〇番

北海道電燈株式會社
帶廣營業所
電話一一一番

帶廣組合銀行
北海道銀行株式會社帶廣支店
北海道拓殖銀行株式會社帶廣支店
北門銀行株式會社帶廣支店
安田銀行株式會社帶廣支店
十二銀行株式會社帶廣支店

帶廣無盡組合
北日本無盡株式會社
殖産無盡株式會社帶廣支店
一力無盡株式會社帶廣支店

北海製糖株式會社
帶廣工場
十勝鐵道株式會社